

脳脊髄液減少症

誰もが発症するかもしれない病気！

のうせきずいえきげんしょうしょう **を知っていますか？**

治らない

頭痛、倦怠感、めまい、体の痛み

怠けて
いるわけじゃ
ないのに…

精神が
弱いわけじゃ
ないのに…

その症状、
「**脳脊髄液減少症**」
かもしれません。

検査しても
なかなか異常が
見つからない

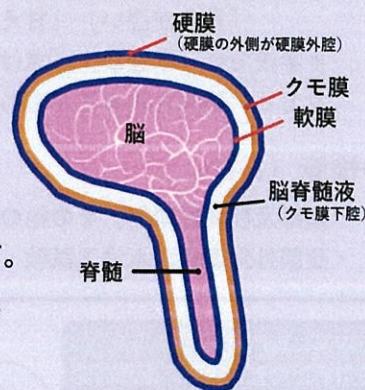
お天気で
体調が変わる

脳と脊髄※1は、髄膜※2という入れ物の中にあり、
その中は脳脊髄液※3という液体で満たされ保護されています。

脳脊髄液減少症とは、脳脊髄液が髄膜内から漏出するなどの要因で
“減少状態”となり、中枢神経(系)への何らかのダメージにより
頭痛、頸部痛、めまい、耳鳴り、倦怠感など様々な症状を呈する
疾患です。

日常生活上の身近なことが原因で、誰もが発症する可能性があります。
発症した場合、適切な治療を施さないでいると、時間の経過とともに
症状が複雑化・重症化して治療が長引いてしまいます。

早期発見と早期治療が、とても重要です。



- ※1 脳及び脊髄は「中枢神経」と呼ばれ、その役割は身体の動き・感覚・思考・記憶・感情のコントロールなど多岐に及び、神経(系)の中枢です。一方、そこから繋がり全身に分布する神経(系)は「末梢神経」といいます。
- ※2 髄膜は、外側から順に「硬膜」、「クモ膜」、「軟膜」(脳・脊髄にぴったりと覆うようにくっついている)の3層から成り、脳及び脊髄を保護しています。
- ※3 脳脊髄液はクモ膜と軟膜の間(クモ膜下腔)にあります。脳及び脊髄はその脳脊髄液の中で浮いた状態にあり、外部の衝撃からクッションの如く守られています。

脳脊髄液減少症を知ってください！

※「脳脊髄液漏出症」「低髄液圧症」と呼ばれる場合もあります。

脳と脊髄は、髄膜という入れ物の中にあり、その中は脳脊髄液という液体で満たされ保護されています。
脳脊髄液減少症とは、脳脊髄液が髄膜内から漏出するなどの要因で“減少状態”となり、中枢神経(系)への何らかのダメージにより頭痛、頸部痛、めまい、耳鳴り、倦怠感など様々な症状を呈する疾患です。

◆発症の原因となること

<事故やケガ>

- ・交通事故 ・自転車での転倒
- ・スポーツ中の
転倒、打撲、落下、衝突など
- ・尻もち ・暴力 ・衝突
- ・頭部、頸部、背部の打撲
- ・階段、遊具、組み体操などからの転落
- その他

<その他の要因>

- ・発熱による脱水
- ・運動後などの水分補給不足
- ・腰椎穿刺検査
- ・金管楽器を強く吹く
- ・カイロプラクティック
- ・整体治療 ・出産 その他

◆いろいろな症状がでます ※人によって症状は異なります。

記憶障害、睡眠障害、
集中力・記憶力低下

めまい、ふらつき、
耳鳴り、難聴、
聴覚過敏

喉の奥の違和感、
声がかれる、
飲み込みにくい、
味覚障害

頸部・背部の痛み

頭痛（起立性が主）、
視力低下、光過敏、
目の奥の痛み、ぼやけ

動悸、腹痛、吐き気、
息苦しさ、食欲低下

腰痛、生理不順、
膀胱の不快感、頻尿

手足のしびれ、
全身の痛み・だるさ、
疲れやすい、
体温調節障害



◆病気の認知度や理解度が低く誤解されることも

- ◎医療機関では、起立性調節障害、片頭痛、心因性、うつ病などと診断されることが少なくありません。
- ◎症状がひどくなると、職場や学校を休みがちになり、
*職場では「やる気がない」
「覚えが悪い」「甘えている」
*学校では「不登校」「怠けている」
などと、誤解されることもあります。

◆早期発見・早期治療が重要！

- ◎発見や治療が遅れて症状が複雑化・重症化すると、治療が長期化してしまいます。
- ◎水分を多くとり、横になって安静にして過ごすことが、症状の改善に役立ちます。特に、発症から数ヶ月以内の急性期や、子供・若年層には、非常に大切な保存的治療法です。
*早期の点滴治療はとても有効です。
*水分補給には経口補水液が効果的です。
- ◎保存的治療法による効果が少ない場合や、慢性化した場合は、『ブラッドパッチ』という治療法により症状改善を図ります。



◆検査（診断）法

- ・頭部及び脊髄MRI、その他の画像検査
- ・硬膜外生理食塩水注入試験

『ブラッドパッチ』とは…

硬膜外腔に自分の血液を注入し、血液が固まる性質を利用して脳脊髄液の漏出箇所をふさぎ、漏れを改善する治療法です。



石川県に専門医を。
石川県に検査・診断、治療のできる病院を。
医師や学校の先生、職場関係者がこの病気に気づいてくれるようになることを願っています。
そして、家族の温かい励ましや見守りなど、周囲の理解が患者の大きな支えになります。

脳脊髄液減少症 石川・金沢 患者家族支援の会

お気軽にお問い合わせください。

E-mail : kananoseki@gmail.com

私たちは、赤い羽根共同募金の助成を受けて活動しています。
私たちを支えてくださるボランティアさんを募集しています。
寄付金も随時受け付けております。



フェイスブックは
こちらから↓



監修：兵庫県明石市 明舞中央病院 副院長・脳神経外科 中川紀充医師